

脳基盤「精神・神経疾患の克服のための研究基盤の整備に向けた課題の検討」

1) 研究課題名

「精神・神経疾患克服のための研究資源（リサーチリソース）の確保を目指した脳基盤の整備に関する研究」

2) 所属機関名 / 氏名

国立精神・神経医療研究センター病院 第一精神診療部 部長 有馬 邦正

3) 目的

神経科学研究と精神・神経疾患の病態解明のため、精神・神経疾患の死後脳を収集し、医学研究者に提供する機構（ブレインバンク、以下 BB と略記）を整備するために調査研究を行う。

BB は実際には 2 つの異なったものを指す；一つは脳の集積（個別の BB サイト）であり、2 つは個別の BB サイトを包含するシステムとしての BB（BB システム）である。

本研究は、死体解剖保存法などの現行法と病理解剖指針および医学研究倫理指針等を遵守した National BB システムのあり方（グランド デザイン案）を示し、剖検病理検体（死後脳など）の収集・保存などの運営に関する諸課題の解決策を提示することを目的とする。また、National BB システム運営のための人材の育成・教育・研修プログラムも含まれる。

4) 概要

以下の(1)から(3)の調査研究を実施し、(4)から(7)を策定あるいは検討する。

- (1)国内の主要神経病理診断・研究機関が凍結保存する死後脳の疾患別の数、医学研究への提供状況などを調査する。また、質の良い死後脳保存のための標準技術を明示し、機器や人件費などの運営経費を明らかにする。
- (2)国内の主要な神経科学および医学研究機関に、死後脳を用いた研究の実施状況と将来の使用の可能性およびその条件などを明らかにする。
- (3)国内外の主要な剖検脳蓄積機関（BB）を、現地視察調査、聞き取り調査などを行い、法制度や社会文化的背景を含めた BB の位置づけを検討する。
- (4)日本に“機能する BB”を設立するために、BB サイト、死後脳の全国データベース、人材の育成・教育・研修プログラム、普及啓発活動などを含む、BB システムのグランド デザイン案を提示する。
- (5)死体解剖保存法、病理解剖指針、医学研究に関する倫理指針などを遵守し、死後脳などの剖検病理検体を収集し保存する機構を構築する。また、運営手順書等を策定する。
- (6)凍結脳などの剖検病理検体を多施設共同研究に提供する手順を検討する。
- (7)日本で死後脳を収集する場合、BB ドナー登録制に加えて、同意能力に制限がある個人（特に未成年者）のドナー登録の課題、行政解剖で得られた死後脳の研究使用の課題を検討する。研究期間内に解決できない法倫理上の課題は、専門家の継続的協議にゆだねる。

